

2020年度 兵庫県審判指導者トレセン 参加レポート

過去の自分から
脱皮しよう。
時代に合った服に着替え、
フィールドの傍に立つ。

次、私が変わる番。

サッカー3級
審判インストラクター
塚本恭一

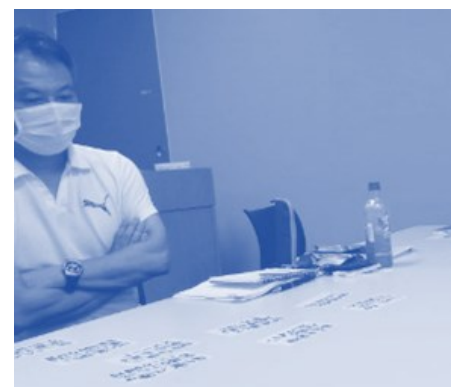
兵庫県下で行われました兵庫県審判指導者トレセン（以下、県イントレ）にインストラクターとして参加しました。
この事業は 2020 年度事業として審判指導者のスキルアップを目的として、兵庫県内で実施されたものです。

内 容

背 景	地域・都道府県におけるサッカーレベルの向上の為、指導者のスキルアップが必要
目 的	審判指導者のスキルアップ、指導方法の習得
内 容	チュータリング及びアナリシス [チュータリング]: チュータリング理論の理解と具現化→講義や試合後の振り返りで審判員が積極的に参画し、自ら課題を見つけて改善方法を見いだせる様な指導手法を学ぶ [アナリシス]: 最新の競技規則の解釈と適用の確認、適切な考慮事項の把握、コンシダレーションポイントに基づいた的確な試合全体の分析力の向上から主審のストロングポイントと課題の抽出から改善方法のアイデアの提示までを行なう
実施期間	2020年7月～11月（8月を除く） 計4回※ ※当初予定では4月～12月の8回でしたが新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言を受け上記の通り期間・回数とも短縮・変更となりました。

兵庫県下のインストラクター5名（2級：2名、3級：3名）が選出され、1回目ではチュータリング理論の解説と最新の競技規則理解の重要性について学び、2回目では予め設定した課題について競技規則の理解と周知をチュータリングの手法を用いてプレゼンテーションを実践。

3回目、4回目ではそれぞれ尼崎市協会社会人トーナメント決勝戦・社会人都市リーグ決勝大会の試合の場をお借りしてレフェリング分析からチュータリング理論に基づいた振り返りの実践を行い、全体を通してチュータリングの理論実践に重きを置いた内容となりました。



「3級審判員の課題」を付箋紙に
書き出すカリキュラムに苦戦！?

チュータリング



第1回



口だけでなく、体現することで
より細かく相手に伝える



第2回

チュータリングについて、過去の研修会などで全体の概念についての認識があった程度で、実践の経験はありませんでした。改めてチュータリングとは何か、ティーチング、コーチングとの違いの解説から始まり審判を指導していく立場にある我々インストラクターにとって、今なぜチュータリングの指導法が必要とされているのか。

—競技規則の理解が深くても、その知識を実際の試合の場において選手との関係構築など、競技規則の細かい部分にこだわってしまい、マネジメントなどの面でうまく生かせていないと言う課題—

審判と一緒に課題を見つけ出し、丁寧に指導していくためにインストラクターは「チューター」（個人的な指導教師）としての役割をいかに身に付け高めて行くか。

それが試された初めての経験が第二回目研修での現役審判員を対象にしたプレゼンテーションでした。私が選んだ課題は、決定的な得点の機会の阻止（DOGSO）でした。自ら映像を選び出し、DOGSO となる場面での監視の重要さと改善に気づいてもらうべくトライしましたが、審判の方々の意見を拾い出しながらうまく競技規則への落とし込みまで繋げる事が出来ず、力不足で悔しい思いをしました。参加された皆さんから貴重なアドバイスを多く頂戴出来、得難い経験となりました。

2020 年度スケジュール

	開催日	会場	内容	支援協会
第一回	7月11日(土)	三田総合文化センター	チュータリングの理論と目的・競技規則理解の重要性	丹有
第二回	9月26日(土)	神戸市兵庫区文化センター	現役審判員を対象とした競技規則のプレゼンテーションによるチュータリングの実践	神戸
第三回	10月25日(日)	尼崎市バイコム総合体育館 およびグランド	チュータリング及びレフェリング分析（尼崎市協会社会人トーナメント決勝戦観戦）	尼崎
第四回	11月15日(日)	加古川陸上競技場 および研修室	チュータリング及びレフェリング分析（設定された課題に対する各インストラクターのプレゼンテーション、社会人都市リーグ決勝大会観戦後の試合分析と振り返りの実践）	東播



関西協会から視察があり、
長谷1級インストラクター
より挨拶と激励が送られた



第3回

第3回の研修では、尼崎市社会人リーグ決勝戦の場をお借りして、レフェリング分析と振り返りを参加メンバー全員で共有することで、分析に基づいた審判団の良かった点と課題を抽出し、振り返りの場でいかにレフェリーに課題に気づき理解をしてもらえるか？試合観戦後から振り返りまでの分析時間もほぼ実戦通りの設定で行いました。私は振り返りを担当させて頂き、自分が感じた課題についてレフェリーと共有できるかどうか、良かったシーンをほめる事も織り込みながら、又副審にも意見を伺いつつ探って行く事としました。

幸いにも、課題についてレフェリーとの共通認識を持つことができたのは良かったですがレフェリーからの質問に対して明確な回答を示せなかった事は、レフェリーの気づきに対して背中を押せなかった点で反省点が残りました。またこの振り返りの場面は映像撮影して頂き、自分の声、視線の動き、しぐさなど客観的に観察することが出来て大いに参考となりました。



正解を言うのではなく、良かった事を褒め、相手の考え・思いを引き出し、自ら課題に気づくよう、答えへと導いていく。



第4回

最終回となった第4回の研修では、新たに選んだ課題に対する2回目のプレゼンテーションと、社会人都市リーグ決勝大会の試合の場をお借りした振り返りの第2回目を行ないました。私のプレゼンテーションの課題は「バイタルエリアでの監視」でした。前回のプレゼンテーションと異なりパソコンは映像のみの使用という制約があり、伝える内容についてよりポイントを絞り、相手に気付かせながら導いていくチュータリングの手法が一層要求される内容となりました。



ホワイトボードを使い、ポジショニングについて、掘り下げていく



内橋指導者部長から
今年の総まとめと
今後への期待が語られた



関西協会 派遣講師

真殿 1 級 INS

佐野 2 級 INS

午後の試合観戦後の振り返りでは、別のインストラクターの方の振り返りを見せて頂き、参加された各位が意見を述べる展開で進行了。他の参加インストラクターの視点には大いに気づかされる所があり、実際のインストラクター活動において観戦ポイントで参考となりました。

全4回と、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、当初予定の半分回数での開催となってしまいましたが、その分濃い内容の研修となったのではないかと感じております。

参加された各インストラクターの皆さんの熱意、活発な意見交換、真摯に取り組む姿勢、さらにインストラクターとしての実力の高さ、全てにおいてリスペクトさせていただいた研修でした。翻って、いかに自分自身まだまだ競技規則の理解が足りなかったか、欠点を痛感しました。プレゼンテーションにおいてもまだまだ自分の表現スキルについてレベルアップが必要であることも良くわかりました。

今回の研修内容を踏まえこれからも日々研鑽し、インストラクターとしてより向上に励んで行きたい所存です。

県イントレの開催にあたり、関西サッカー協会インストラクターの皆様、兵庫県サッカー協会関係者の皆様、また各都市協会審判委員長の皆様には多大なるお時間、ご調整を頂き、誠にありがとうございました。

特に今年度の開催では、新型コロナウイルス感染拡大により大幅な予定変更や開催回数縮小の状況のもと、密度の濃い研修を開催して頂いた事に感謝の念が絶えません。地域密着と活性化の観点から各都市協会と指導者部との連携がうまくマッチし、我々受講者にとっても受講しやすい環境を整えて頂いたと感じております。

最後に、インストラクターとしてまだまだ未熟ではありますが、次のステージへとステップアップして行く為に、今後ともどうかご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

誠にありがとうございました。